

## 50年の経歴と現状

鷲野 正光

50年の経歴は概略次の通りです。

- 1957 4/8 原研入所  
7/1 放射線応用部 放射線利用研究室 研究員
- 1958～ 東海研 Co-60 照射室および質量分析計を整備・運転して放射線化学の研究に従事
- 1961 9/2 フランス、サクレ研究所に留学
- 1963 8/1 帰国、原職に復帰
- 1966 3/1 高崎研究所 第1研究室 研究員
- 1969 7/1 高崎研究所 研究部 副主任研究員
- 1980 5/1 研究部 主任研究員  
8/25 開発試験場 照射施設課長
- 1982 4/1 「排ガスの電子線処理に関する放射線化学的研究」に対して 日本原子力学会賞 論文賞 を受賞 (鈴木伸武、徳永興公 両氏と連名)
- 1984 9/15 国際原子力機関に出向、長期駐在専門家  
(ジャカルタに駐在して放射線の工業利用に関する研修コースを開催、東南アジア諸国から研修生を受け入れ)
- 1985 9/30 帰国  
10/1 高崎研究所 所長付
- 1990 10/1 (財)放射線照射振興協会に出向、高崎事業所 所長付次長
- 1991 4/1 原研を退職、  
(財)放射線利用振興協会 嘱託、常勤部長
- 1998 3/31 放振協を退職

以後、高崎の自宅近くに30坪ばかりの菜園を借りて晴耕雨読、時には海外旅行などを楽しんでおります。

5年ほど前から漢詩を自分で作ることを習い始めまして、雨読の方はもっぱら それにあてています。

春日遊埃及	シュンジツ エジプトに あそぶ
鵬程萬里遡尼羅	ハウテイ バンリ ナイルをさかのぼりて
俯瞰堰堤千頃波	フカンす エンテイ センケイの なみ
列座巨神湖岸聳	レツザのキョシン コガンにそびえ
詔華映水碧如磨	ショウカ みずにエイじて ヘキ マすがごとし

(ショウカ の ショウ は 音偏が正しいのですがパソコンに字が見当たりませんので失礼)

空路成田から一万キロ、ナイル河をさかのぼると、長江ダムができるまで世界最大と言われていたアスワンハイダムと、広大なナセル湖のさざ波が眼下に見えてきます。今は湖に沈んだ谷間

から湖畔に移設されたアブシンベル神殿の前面には巨大な神や王の像が聳え立ち、雨期直後の高原の春景色が湖面に写って緑の板を磨き上げたようです。

(七言絶句 平起式 下平声五 歌韻)

梅雨暫晴	バイウ	しばらく	はる			
黄熟枇杷鳥雀噪	コウジュク	せる	ビワに	ウジャク	さわぎ	
青青楊柳郭公啼	セイセイ	たる	ヨウリュウに	カッコウ	なく	
既耕己種坐茅屋	すでに	たがやし	すでに	うえて	ボウオクに	ザし
野老心閑詩可題	ヤロウ	こころの	どかなり	シ	ダイすべし	

(晴の字は雨カシムリに斉の字が、ウジャクのジャクは昔偏に鳥でカササギ、郭公なくのナクは口偏に帝の字が正しい字です)

カササギが騒ぐのは良いことの前兆だそうです。ここでは恰好が良く似たオナガをウジャクと呼びました。家庭菜園の耕作も一応済ませて、田舎じじい(作者)は のんびりと詩でも書くとしましょう。

(七言絶句 仄起式 上平声八 齊韻 踏み落とし)